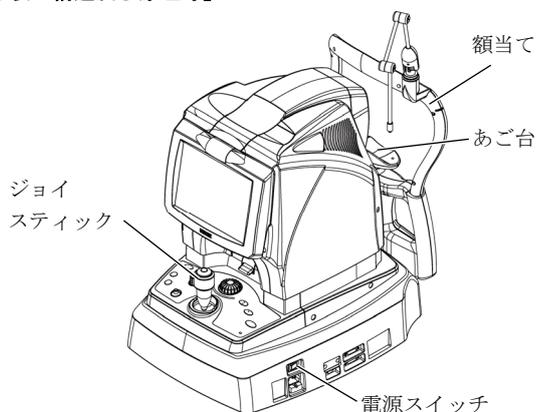


機械器具 22 検眼用器具
管理医療機器 眼撮影装置 (16419000)

光干渉断層計 RS-3000 Advance

特定保守管理医療機器

**【形状・構造及び原理等】



1. 構成

各構成品は単体または任意の組み合わせで出荷されます。

基本構成

装置本体、絶縁トランス

パーソナルコンピューター (以下 PC と記載。PC モニター含む)

電源コード (装置本体用、絶縁トランス、PC、PC モニター用)

カメラリンクケーブル (SLO 用、OCT 用)

トリガーケーブル、外部固視灯

オプション

電動光学台、PC ラック、プリンター

外付ハードディスク、前眼部観察用アダプタ

OCT-Angiography アップグレードキット (OCT-Angiography ドングル他)

2. 体に接触する部分の組成

機能切換えスイッチ	: ABS 樹脂
コントロールノブ	: ABS 樹脂
スキャン角度/幅ノブ	: ABS 樹脂
ポインティングスティック	: ABS 樹脂
リリーススイッチ	: ABS 樹脂
ジョイスティック	: ABS 樹脂、合成ゴム、ポリカーボネイト
上記以外の操作パネル上スイッチ	

(クリアスイッチ、メニュースイッチ、あご台 Up/Down スイッチ、Optimize スイッチ、前眼/眼底観察切換えスイッチ、Start/Stop スイッチ)

: ポリエチレンテレフタレート

固定レバー : アルミニウム

電源スイッチ : ポリアミド樹脂

* 額当て : ポリエステルエラストマー

あご台 : ABS 樹脂

外部固視灯 : ABS 樹脂、アルミニウム

キーボード : ABS 樹脂

マウス : ABS 樹脂

電源スイッチ (絶縁トランス) : ポリアミド樹脂

前眼部アダプタ (オプション) : アルミニウム、ポリアセタール樹脂

前眼部用額当て (オプション) : ABS 樹脂

3. 電氣的定格

装置本体 : 電源 AC100V、50/60Hz、300VA

絶縁トランス : 電源 AC100V、50/60Hz、最大許容出力 1000VA

** 4. 機器の分類

電撃に対する保護の形式による分類 : クラス I 機器

電撃に対する保護の程度による装着部の分類 : B 形装着部

5. 寸法及び質量

寸法

装置本体 : 380 mm (W) × 524 mm (D) × 515 mm (H)

絶縁トランス : 142 mm (W) × 564 mm (D) × 239 mm (H)

質量

装置本体 : 34 kg

絶縁トランス : 18 kg

6. 機能

網膜断層撮影/眼底面撮影

前眼部断層撮影/前眼部正面撮影 (オプション)

7. 作動・動作原理

本装置は、一般に光干渉断層計に分類される。

前眼部正面像/眼底面像の検出

観察・撮影光であるレーザー光を眼球に走査して、観察・撮影光源と焦点が共役な関係にある画像を検出する共焦点レーザー走査方式により、前眼部正面像または眼底面像 (SLO 画像) を求めている。

前眼部断層像/網膜断層像の検出

観察・撮影光であるスーパーluminescent diode (SLD) を眼球に走査して得られた干渉光を波長スペクトルに分解し、ライン CCD により検出された信号を演算処理することで前眼部または網膜の断層像 (OCT 画像) を求めている。

【使用目的又は効果】

1. 使用目的

眼球を観察、撮影または記録し、電子画像情報を診断のために提供する。

【使用方法等】

1. 環境条件

温度 : +10~+35℃

湿度 : 30~90% (結露なきこと)

気圧 : 800~1060 hPa

装置に水がかからない場所であること

有害なほこり、煙の少ない場所であること

振動、衝撃の加わらない、傾斜のない、安定した場所であること

直射日光の当たらない場所であること

取扱説明書を必ずご参照ください。

2. 使用方法

基本的な操作は(1)→(2)→(3)→(4)→(5)の流れとなります。
オートスキャンスタートを有効にした設定での手順です。

(1) 装置の起動

- (1)-1. 絶縁トランスの電源スイッチを ON にします。
- (1)-2. 装置本体の電源スイッチを ON にします。
- (1)-3. PC 周辺機器の電源スイッチを ON にしてから、PC の起動スイッチを押します。
- (1)-4. 本装置に関連するソフトウェアを起動します。
オートスキャンスタートの機能により、スキャン撮影が開始されます。
- (1)-5. 対物レンズから対物レンズキャップを外し、レンズの汚れを確認します。
- (1)-6. 始業点検を行います。

(2) 準備

眼底面/網膜断層撮影の場合

- (2)-1. OCT 設定、SLO 設定などの設定をします。
- (2)-2. 額当て、あご台およびグリップをクリーニングします。
【保守・点検に係る事項】の 1. クリーニングの項を参照のこと。
- (2)-3. 装置本体のジョイスティックを持ち、撮影部を検者側の手前いっぱいに引きまします。
- (2)-4. あごをあご台に載せ、額を額当てに接触させるように、また両手でグリップを軽く握るよう、被検者に指示します。
- (2)-5. 被検者の眼の高さがアイレベル確認ラインに合致するように、あご台 Up/Down スイッチであご台の高さを調節します。

前眼部正面/断層撮影の場合 (オプション)

- (2)-1. 前眼部アダプタのレンズに汚れがないことを確認します。
- (2)-2. 前眼部アダプタを装置本体に装着します。
- (2)-3. 前眼部用額当てを装置本体の額当てに取り付けます。
- (2)-4. OCT 設定などの設定をします。
- (2)-5. 前眼部用額当て、あご台、およびグリップをクリーニングします。
【保守・点検に係る事項】の 1. クリーニングの項を参照のこと。
- (2)-6. 装置本体のジョイスティックを持ち、撮影部を検者側の手前いっぱいに引きまします。
- (2)-7. あごを前眼部用額当ての厚み分引いてあご台にのせ、額を前眼部用額当てに接触させるように、また両手でグリップを軽く握るよう、被検者に指示します。
- (2)-8. 被検者の眼の高さがアイレベル確認ラインに合致するように、あご台 Up/Down スイッチであご台の高さを調節します。

(3) 撮影

眼底面/網膜断層撮影の場合

- (3)-1. 装置本体のモニター画面上に被検眼が表示されるようにジョイスティックを使ってアライメントを行います。
- (3)-2. 角膜反射輝点をはっきり見え、かつ、瞳孔とアライメントサークルがほぼ同心円になるようにアライメントを行います。
- (3)-3. オートスキャンスタートの機能により、スキャン撮影が開始されていることを確認します。
- (3)-4. 被検者に固視灯を注視させます。
- (3)-5. SLO 画像の明るさが均一になるようにジョイスティックでアライメントを行います。
- (3)-6. Optimize スイッチを押します。
- (3)-7. レリーズスイッチを押して撮影を行います。
- (3)-8. 撮影画像を確認し、PC に保存します。

前眼部正面/断層撮影の場合 (オプション)

- (3)-1. オートスキャンスタートの機能により、スキャン撮影が開始されていることを確認します。
- (3)-2. 装置側面から見て、被検眼と前眼部アダプタとの距離が約 15mm 程度になるようにゆっくりと撮影部を被検者側に移動させます。
- (3)-3. 装置本体の LCD モニター上で被検眼中心が表示されるようにジョイスティックを使ってアライメントを行います。
- (3)-4. Optimize スイッチを押します。
- (3)-5. 外部固視灯を他眼で注視させ、意図する部位が OCT 画像として表示されるように被検眼を誘導します。
- (3)-6. レリーズスイッチを押して撮影を行います。
- (3)-7. 撮影画像を確認し、PC に保存します。

(4) 撮影画像の解析

保存した網膜断層像、または前眼部断層像から得た情報を基に、医師が解析します。

(5) 終了

- (5)-1. PC のソフトおよび Windows を終了します。
- (5)-2. PC 関連機器の電源を OFF にして、終了します。
- (5)-3. 装置本体の電源スイッチを OFF にします。
- (5)-4. 絶縁トランスの電源スイッチを OFF にします。
- (5)-5. 対物レンズに対物レンズキャップを被せます。
- (5)-6. 額当て、あご台、およびグリップをクリーニングして、装置にダストカバーを被せます。

【使用方法に関連する使用上の注意】

- ・アライメントや被検眼を左右に切り替える時、被検者の顔に装置本体の撮影部や前眼部アダプタが接触しないよう、ジョイスティックをいったん手前に引いてからアライメントを行うこと。
[前眼部アダプタは眼に接触する恐れがある。]
- ・装置本体の可動部 (撮影部、本体部、あご台) の隙間に手や指を置かないこと。[手や指を挟み、けがをする恐れがある。]
- ・撮影終了後、被検者が装置から離れる際、あご台部をつかんで立ち上がらないように注意すること。[装置が倒れて、けがをする恐れがある。]

**【使用上の注意】

** ・本装置は眼科医またはその他医師、看護師、臨床検査技師の方のみ操作すること。[電子化された添付文書および取扱説明書の範囲外の使用により、予期せぬ不具合・有害事象が発生する恐れがある。]

1. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

・幼児、無水晶体眼、眼底疾患のある被検者 [光障害に対して、より大きなリスクがある。]

2. 重要な基本的注意

・撮影に先立ち、撮影の目的、方法について十分に説明すること。
[意図した撮影ができない恐れがある。]

取り扱い

- ・長時間にわたる、照明光・撮影光の照射を行わないこと。
[長時間、網膜に照射すると、光障害を発生する恐れがある。]
- ・固視および開眼が十分されている状態で撮影を行うこと。
[適切な撮影画像が得られない場合がある。]
- ・使用前に対物レンズ、および前眼部アダプタのレンズに傷、ほこり、ごみ、指紋などが無いことを確認すること。
[撮影画像の画質が低下する恐れがある。]

3. 移動及び設置等の注意

- ・振動、衝撃の加わらない、傾斜のない、安定した場所に設置すること。[正しく撮影できなかつたり、故障の原因になる。また、衝撃での転倒により、けがをする恐れがある。]
- ・装置に直射日光等、強い光が当たらない場所に設置すること。
[外乱光による撮影画像不良、および測定精度不良が起きる恐れがある]
- ・生命維持装置等の被検者の生命/治療結果に重大な影響を与える装置、および微小信号を扱う検査/治療装置と同一室内で使用しないこと。[これらの医用電気機器に対し有害な影響を与え、装置の動作に影響を与える恐れがある。]
- ・携帯用および移動用 RF (高周波) 通信機器を本装置の近くで使用しないこと。[これらの装置は医用電気機器に有害な影響を与え、装置の動作に影響を与える恐れがある。]
- ・電源スイッチが OFF になっていることを確認してから、電源コードをコンセントに接続、または取り外しすること。[通電状態で電源コードを抜き差しすると、装置が故障する恐れがある。]
- ・装置の移動は二人で装置本体のベース部の左右両側を持って運ぶこと。額当て、あご台、グリップやジョイスティック、撮影部などを保持しないでベース部の底を持つこと。[ベース部以外を保持した場合は、装置を落下させる等でけがをしたり、装置が故障する恐れがある。]
- ・装置の輸送を行う場合は装置本体を梱包モード設定にし、かつ、固定レバーで本体部をロックしないで、専用の梱包材に納めて輸送すること。また、輸送中に過度の振動、衝撃が加わらないようにすること。[過度の振動、衝撃が加わった場合、故障の原因になる。]

【保管方法及び有効期間等】

1. 耐用期間

新規購入日から8年 [自己認証による]

2. 保管の条件

輸送/保管時

温度：-10～+55℃

湿度：10～95%（結露なきこと）

気圧：700～1060 hPa

3. 貯蔵・保管

- ・水のかからない場所に保管すること。
- ・直射日光や湿度の高い環境を避け、室温にて保管すること。
- ・清潔で乾燥した場所に、荷重の掛からない状態で保管すること。
- ・化学薬品、有機溶剤の保管場所や腐食性ガスの発生する場所には保管しないこと。
- ・空气中に塩分、イオウ分、多量のほこりを含む場所には保管しないこと。
- ・振動、衝撃が加わらず、傾斜のない場所に保管すること。
- ・装置が結露しないようにすること。

**【保守・点検に係る事項】

・本装置のサービストレーニングを受けていない者が、分解、修理やソフトウェアのアップデートを行わないこと。

使用者による保守点検事項

医療機器の使用・保守の管理責任は使用者にある。

1. クリーニング

- ・被検者に接触する部分（額当て、あご台、グリップ）は、使用前および次の被検者の撮影を行う前に消毒用アルコールを含ませた清潔なガーゼ等で清掃すること。[前の被検者の汗や化粧品等が次の被検者に付着する恐れがある。]
- ・対物レンズ、前眼部アダプタのレンズに指紋等の汚れが付着している場合は清掃すること。ただし、対物レンズのクリーニングでは消毒用アルコールは使用しないこと。[わずかな汚れでも撮影画像の画質に影響する場合がある。]

** ・感染症患者に前眼部断層撮影を行った後は、必ず消毒用アルコールを含ませた綿棒等で清掃する事。ただし、前眼部アダプタのレンズに消毒用アルコールを使用する場合はごく少量とすること。
[二次感染の恐れがある。]

2. 保守・点検

- ・装置にほこりが溜まらないようにし、使用しないときは装置本体の対物レンズに対物レンズキャップを被せてからダストカバーを被せること。[ほこりなどにより撮影に影響を与える恐れがある。]
- ・しばらく使用しなかった機器を再使用するときには、使用前に必ず機器が正常かつ安全に作動することを確認すること。[適切な撮影ができない恐れがある。]
- ・装置は1年に1回、外観、機能、性能について点検すること。
詳細については付属の取扱説明書【序章】を参照のこと。

なお、使用者自ら定期点検できない場合は、(株)ニデックで受託することができる。

- ・耐用期間を超えて装置を使用しないこと。[適切な保守点検の上でも、装置の信頼性・安全性が目標値を維持できなくなる場合がある。]
- ・装置の保守点検前、あるいは装置を保守点検や修理のため(株)ニデックに送る場合、消毒のため外観(特に被検者が触る部分)を消毒用アルコールを含ませた清潔なガーゼ等で清掃すること。
[二次感染の恐れがある。]
- ・万一、装置が故障した場合は、電源コードをコンセントから抜き、装置の内部に触れないで、(株)ニデックまたは購入先まで連絡すること。[感電する恐れがある。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：株式会社ニデック

電話番号：0533-67-6151(代)

取扱説明書を必ずご参照ください。